

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800015		
法人名	医療法人悠山会		
事業所名	グループホーム ファミリア下呂		
所在地	岐阜県下呂市森2273番地		
自己評価作成日	令和元年9月12日	評価結果市町村受理日	令和元年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kairgokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2192800015-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kairgokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2192800015-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和元年10月2日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念に基づき、地域に根ざすやさしさ、やすらぎ、信頼をモットーとし、職員一人一人が意識を持って介護サービスに努めています。また利用者が残された力を発揮し、おやつ作りや洗濯物の方付けなどをおこなっていただき、またその方ができる事をみつけて継続してできるように支援し、いきいきとした生活ができるように努めています。入浴は温泉を利用して寝たきりの方にも入浴を楽しんでいただいています。訪問歯科診療があり、義歯の調整や口腔ケアにも力を入れており、食べることの楽しみや嚥下機能をいつまでも維持していきたいと考えています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、温泉のある多機能介護施設のひとつとして運営され、同法人による訪問歯科診療に加え、昨年、新たに「ファミリアクリニック」診療所を開設している。利用者は、恵まれた生活環境と医療支援の下で、併設の介護サービス利用者と交流しながら持てる機能を発揮し、生き生きと暮らしている。管理者は、法人合同会議や研修会で、職員の意識改革と専門性を磨き、働きがいのある職場環境作りと職員の定着率につなげている。職員一人ひとりが、常に優しい声かけを心がけ、利用者との信頼関係を築きながら、最期まで、その人らしい生活が送れるよう支援している。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を念頭におき、介護サービスが提供できるように取り組んでいる。理念を目につくところに掲示し、意識できるようにしている。	理念は、目に付きやすい場所に掲示し、ケアのスローガンと共に運営推進会議の議事録にも明記している。管理者と職員は、利用者との信頼関係を築きながら、優しく寄り添い、理念に沿った暮らしを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事などには地域のボランティアの方に訪問して頂いている。事業所としては、班での清掃活動や防災訓練に参加している。	地域の防災訓練や行事に参加している。今年度から、障がい者支援学校生の介護体験を受け入れている。祭り際には、地域の各種ボランティアが訪れ、利用者の楽しみとなっている。事業所のイベントには、地域住民を招いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修生や実習生の受け入れをおこなっている。推進会議などで事例や対応の方法などを話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催しており、行事での出来事やヒヤリハット、事故報告などを行っている。	運営推進会議は併設の事業所と合同で開催している。利用者の状況や活動を報告し、事故防止やヒヤリハットの予防対策等も話し合っている。また、人材確保や職員の育成についても意見交換し、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の状況などを伝え、入退所の相談や法改正に対しての情報交換などをおこなっている。	市の担当者に事業所の実情や困難事例について相談し、助言を得ている。また、定期の実施指導やサービスの内容でも点検を受けている。行政主催の会議や研修会に参加し、情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会の参加や事業所内の勉強会もおこない、理解するように努め実践していけるように努めている。委員会もおこない現在の状況を検討し、拘束のないケアと安全対策に取り組んでいる。	身体拘束等適正化委員会を定期に開催し、拘束のないケアに取り組んでいる。バルーン使用やベッドから転落の可能性がある利用者の場合には、家族の同意を得て、安全対策として足側に柵を設置する必要があるが、過度な負担がないように対応し、経過観察と再検討結果を記録している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修会にも参加し、事業所の勉強会や、内出血の後や表皮剥離などの原因追明して対応策などを検討し防止に努めている。		

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性についてはその時の状況に応じて関係者との情報交換をおこない、活用に向けて取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解、納得されるように確認しながら説明をおこない、不安や疑問があればその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者を通じて思いを抽出しやすいようにしている。運営推進会議で意見の交換をおこない、出席できないときは返信はがきにて要望や意見が伝えられるようにしている。	利用者の意見や要望を、担当者が中心となって把握し、家族とは、運営推進会議や面会時に話し合っている。毎月発行のホーム通信「あんきやよ」には、担当者による手書きの近況報告欄を設け、相互理解を深めている。	家族アンケートでは、高い評価が得られているが、提供したサービスの実態が伝わっていない例が見られる。伝達手段のさらなる工夫に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に一度法人の代表者と会議をもうけ、職員からの要望や意見を取り入れて改善を検討していただいている。	代表者を交えての会議を定期的で開催している。また、管理者との職員会議とミーティングの場がある。ケアの気づきや働き方、スキルアップなど、多様な意見や提案について話し合い、それらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務の内容や時間など、勤務状況を把握し、勤務表なども考慮している。また職場環境の改善や整備を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の積極的な参加や毎月の勉強会をおこない、一人一人のケアの方法や知識の向上に努めている。また資格取得のための研修を積極的に働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自治体での勉強会や地域活動への参加などを働きかけ、情報交換などをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学や面談をおこない、本人の要望や不安を伺い、安心して暮らせるように信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安な事も含め情報収集し、また面会時などご家族に積極的に話かけ、意見や要望を伺い、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人の生活状況をみながら、今必要な事はなにか、カンファレンスなどをおこなって検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人様のできる事を見極めながら一緒にやれることを手伝っていただいたりして、生活を共有するものとして信頼関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月郵送する広報で近況報告や情報を伝えたり、面会時にはご本人様とゆっくりすごしていただけるように環境を考えたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や友人の方も気楽に面会できるような雰囲気作りをしている。また馴染みの場所そこの人との関係継続を図り外気浴やドライブに出かけている	近所の人や身内の訪問が常にあり、併設のサービス利用者とも馴染みの関係を築いている。季節の花見や紅葉狩りなど、ドライブを兼ねて出かけている。家族も一時帰宅や墓参り、初詣、美容院などに連れ出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活を共にする中で、利用者同士の関係を把握し、孤立することのないよう注意して見守りし、良好な関係が保てるように配慮し交流できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、次の入所施設でも継続したサービスが提供できるよう情報提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人が日々の会話、コミュニケーション、表情から本人の思いを把握、推察するようにカンファレンス等で意見交換をおこなっている。	日々の会話や個別ケアの中で、利用者の思いを把握するよう努めている。意思表示が困難な人は、声かけを工夫し、仕草や表情から汲み取っている。新たな気づきがあれば、職員間で共有して個々の思いに寄り添い、その人らしい暮らしを支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人家族、関係者からの聴取も含めて情報収集して把握に努め、今後も継続したサービスができるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で小さな変化にも気づき、職員同士でカンファレンスや記録などで情報交換をおこなって状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや職員間での会話の中での意見交換やケアマネとの担当者会議において現状にあった支援ができるように努めている。	サービス担当者会議には、できる限り家族の参加を得て開催している。参加できない家族には、訪問時に意向を確認し、現状に即した介護計画を作成している。利用者が健康を維持しながら、安心して生活を送れる計画作りに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送りノートを活用することで職員間の情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	傾聴や意見交換により抽出した本人、家族の希望には柔軟に対応し可能なかぎり希望に沿った支援をおこなえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	刺激ある生活ができるように、地域のボランティアによる法話や、歌踊りなどの行事を開催している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を主治医としている。送迎の支援や、受診に付き添い主治医との関係を築き、状態の報告や、緊急の場合の対応を依頼している。	個々に希望するかかりつけ医を継続し、それぞれの主治医が往診に訪れている。同法人協力医による診察も週に1度あり、看護師、職員が連携しながら急変時の手順も整え、適切な医療支援を行えるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による健康チェックをおこない、体調管理を行っている。夜間も看護師が電話対応や緊急時の支援もおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との情報交換をこまめにおこない、協力体制を整えている。入院時には看護師も付き添い今後の治療方針や入院期間の話をきいたり、退院についても、医療機関と家族との調整をおこないながら、連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の特徴を説明したうえで、本人家族が希望され納得できる終末期がむかえられるように話し合いを持ち支援している。	契約時に、重度化や終末期の方針について説明し、家族と同意書を交わしている。さらに、段階に応じて家族と関係者で話し合い、方針を決定し、関係者で共有している。職員教育を行いながら、より良い看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修にて知識を高めるとともに、マニュアルにより緊急時の対応を確認している。消防署での研修にも参加し、スキルアップをはかっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。推進会議の委員の方にも参加していただき、連絡網も含め協力体制を築いている。訓練には近所の班の方の参加をしていただき、再度夜間時の対応の協力を依頼している。	防災訓練には、地域住民の参加を得て実施し、利用者も水消火器による初期消火を体験している。昨年は、台風による停電被害を体験し、対応策をマニュアル化している。地域の防災訓練にも参加して協力体制を築き、応分の備蓄も確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	外部の研修や事業所内での勉強会を開催し、言葉使いや態度、軽率な対応にならないように注意している。	利用者への言葉かけについて話し合い、言葉遣いや馴れ合いにならないことを徹底し、職員同士で注意し合う事としている。職員研修会でも接遇や倫理規定について学び、利用者の自尊心や誇りを損ねない支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当職員により思いや希望を表す場を設けて、自己選択の機会を提供し、御本人が思いを表現しやすいように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者との会話や表情などで、その日の思いなどを聞き出し希望に沿って生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容では、本人好みの化粧水やクリームを使用し、衣類は本人と一緒に決めるなどし、また季節に応じたものがきれいのように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りおやつを月1回程度開催し、一緒に準備して作っている。検食をおこない一緒に食事を楽しみ、食事環境や好みにも気を付けている。	利用者の嗜好を把握し、食欲を満たし、満足感が得られる食事を提供している。家庭的な味付けと品数、彩りも工夫している。重度の利用者には、介助と見守りを行い、検食を行いながら職員も一緒に食し、利用者は、テーブル拭きや食器拭きなどを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し状態把握をしている。季節に応じて水分摂取量も調節している。食事量の少ない方は主治医にも相談し、栄養剤などの処方を依頼したり、食事形態をかえたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにより毎食後個々にあわせた口腔ケアをしている。口腔内の異常や義歯の調整は歯科衛生士に依頼し、対応している。		

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記録をおこない、訴えない方でも誘導をおこなって、トイレでの排泄ができるよう支援している。	個々の排泄記録表に沿って、適宜トイレへ促し、排泄の自立につなげている。夜間は、安眠を優先して利用者の状態に合った排泄用品を選択している。カテーテル使用者にも、負担感がないよう支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンの把握により体調や食事摂取量を考慮し、下剤の使用や食事量の調整をしている。また起床時に冷水を飲用していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉入浴を楽しんでいただいている。言葉かけや促しのタイミングや方法に気をつけ支援している。	温泉設備のある大浴場があり、窓越しに見える景観も雄大である。個別入浴、複数での入浴も選択できる。回数や時間帯は柔軟に変更でき、体調や気分がすぐれない時は、無理強いせず、タイミングを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境整備により居室で快適にすごせるように配慮している。日中も休息時間がとれるように状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会により薬の知識を高めている。マニュアルのもと確認作業の徹底をおこない誤薬を防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の意欲や能力に合わせて可能な事を見守り、声掛けをして支援している。毎月行事を計画し楽しみをもっといただくようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や天候により、外気浴や外出を実施している。おやつを庭でいただいたり、地域の行事にも参加できるよう支援している。	日常は、庭の散歩やテラスで外気に触れている。希望者は地元の行事や初詣に出かけ、年間行事では、ドライブを兼ねて花見や紅葉狩り、道の駅などへ出かけている。普段行けない所へは、家族の協力を得ている。	

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売や訪問パン屋、外出時の喫茶利用、日用品の購入など本人の選択により購入し、職員が支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人ができる範囲で手紙や電話を自由に利用できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃により清潔保持をしている。四季を感じることができるように季節にあわせた作品を飾ることや、行事の写真などを掲示し楽しんでいただいている。庭に咲いている花などをつんでいただき花瓶にさしてもらっている。	共用の間は広く、併設の利用者とも自由に交流することができる。随所に野の花を飾り、壁には季節感のある手づくり作品、行事の写真などを掲示している。テーブルやゆったりとしたソファを配置し、利用者が好きな場所で、新聞や雑誌を見ながら寛くことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うもの同士で過ごせるように席の位置など配慮している。他の事業所のフロアにも自由に行き来している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族の希望のものを居室に配置している。写真や作品を飾り、居心地よい空間になるように工夫している。	居室は和室と洋室があり、クローゼットが設置されている。おむつ用品や小物類は目立たない場所に収納し、整理整頓されている。整理ダンスや鏡台、好みの物を自由に持ち込み、ぬいぐるみや趣味の作品、写真などを飾り、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故防止をはかり、安全な環境で過ごせるように本人の身体状況に応じてベットの位置や家具の配置を工夫したり、手すりの設置をおこなっている。		